

魚沼市まちづくり

生活自然環境部会

# 昆虫コミュニティの復活



(平成 26 年 10 月)

## はじめに

魚沼市は四方を豊かな自然に囲まれた、お米の美味しい「魚沼コシヒカリ」の産地である。しかし、最近は水田や水路の整備・農薬振興・田んぼの中干し等でトンボやトノサマガエルの姿が見えなくなってきた。これで本当の豊かな自然と言えるのでしょうか。ぜひ自分達の地域で生きものが豊かに生息でき、農薬を沢山使用しなくても共生できるようにしていきたい。

昆虫や水辺の生きものがイキイキと生息できる豊かな自然を目指して取り組めるように、魚沼市まちづくり「生活自然環境部会」では、平成25年から平成26年までの2年間、休耕田を活用して、トンボや水辺の生きもの・カエル等が産卵し、安心して泳ぎまわるようにビオトープを作り、生きもの生息状況の観察をしてきた。今回その結果を報告することにより、今後、魚沼市内のいろいろな場所でビオトープが盛んに作られ、生きものと市民が共生できる自然豊かな魚沼市になることを願っています。

## ビオトープ作り

H25・5・18 入広瀬地区の休耕田を利用して、5人の部会メンバーで小さいビオトープを作る。その後、H25・9・23 もう一か所完成する。

(休耕田)



(完成したビオトープ)



両方とも重機を使用せず、スコップで土を掘って浅いビオトープを作る。



## 大雨時や雪解け後の整備

土が増えてきたので、スコップで周りに上げる。カエルの卵やヤゴには気をつけながら作業を行う。



## 生きもの観察

トノサマガエル (多い)



シュレーゲルアオガエル



ツチガエル



カエルの卵 (多い)



オタマジャクシが群がる



イモリとオタマジャクシ



ショウジョウトンボ (雄)



そばにいたトンボ雌のようだ



シオカラトンボ (雄)



オニヤンマ



キイトトンボ



その他のイトトンボ (多い)



(雌)



ギンヤンマ (左上に飛んでいる姿)



モノサシトンボ



生きものの生活・・・多くの生きものが一生懸命に生きている姿が見られる！

- ・トンボは小さい昆虫を食べている。(田んぼの害虫も食べる)
- ・カエルはイトトンボや害虫を餌として食べる。
- ・イモリはオタマジャクシや小さい水の中にいる虫を食べる。
- ・鳥はイモリやカエルやタニシを餌として食べる。
- ・蛇はイモリやカエルを餌として食べる。
- ・その他小動物もやってくる。

他の昆虫もビオトープの近くにやってくる



田んぼやビオトープで自然と触れ合う！

地域の子どもたちに声をかけて、いろいろな生きものとの触れ合い体験

◎幼稚園児がオタマジャクシとタニシ捕りを楽しむ。(春)



◎学童クラブの児童がイモリ・トンボ・カエル・バッタ捕りに挑戦。(夏)



まとめ

私たちの周りには、いろいろな生きものが生息している。小さいビオトープを作ることによって、水辺を求めているいろいろな生きものがやってくるということが分かった。また、稲の害虫を食べる昆虫も自然に増えてくる。昆虫コミュニティの復活を通して私たちの生活をいっそう豊かにしてくれ、自然のすばらしさを心から感じる事ができた。